京城新聞

●大邱令市の景況

令市（俗に藥令とも稱す）は從前大邱と公州の二ヶ所に開設せられ居りたるに甲午以降丁酉の年晋州に觀察府を新設せられし當時同觀察使曹始永が右の兩令市に搬出さるゝ藥品物貨の多くが其の地を通過するを見て開始に令市を開設するの利なるを想ひ政府の允可を得て之を開設せしより現今にては全國中三ヶ所となれり此の令市の名は何れの年代に開始せられしやは何等記錄の徴すべき無きも古老の言に依れば既に百餘年以前に於て盛んに開催せられたるを認めらる令市が他の一般市場に異なる點は他が一地方人民のために開市せらるゝものたるに異なりて全國の藥品其他物貨の中央貿易となる點にして從來監營は此の市に依りて藥品の買上げをなし其の買上の有無は市の開否を左右せし等の事あり當時各道の監營は何れも一定の時期に於て各種の產物を宮中に進獻するを以て例とせしものなるが大邱監營は藥品を重なる進獻物となし來り而して此の藥品が悉く此の令市より買上げをなし例年開市の期に際し監營は藥品買上げの令を下し特に市中に吏員を派して所要の藥品を購入し其の終了を待て初めて一般商民の賣買を許したるものなれば令市の名は蓋し此れに根源せしものなるべし往昔は其の買上時刻一定せざりしを以て市の期日も亦一定せざりしを七十餘年前買上は春季に於ては陰二月三日秋季に於ては同十月三十日と定められたるを以て其の翌日若くは當日買上を終るを期として開市し其の月末日を以て閉鎖するを例とす此の進獻藥品買入れの負擔は悉く監營配下に在る一般人民の負擔する所にして當時各郡守は貢參錢の名目の下に之を郡民に課したる事ありて其の買入價格は十六七萬圓の多きに上りたる事ある由此市の起源に就ては二説あり其の一は往昔政府は當國各地の藥草交換の目的を以て全國に此の市を創始せりと云ひ他は往昔大邱地方が肥饒なる農業地として其の所產物夥多なるに拘らず貿易の途常に振はざるを慨き當時の牧使某が政府に稟請して之を創知し以て商業の殷盛を企劃せしものなりと云ひ所説一定せざれども兎に角開設の當初より七十餘年前迄は市場の目的物は悉く藥草に止まりたるに漸次之に伴ふて全國各地方物產の中心貿易場と變化し來り當市場に於ては當國の產物一として辨せざるもの無きの盛況を呈したる時代ありて其の開設場所は當地に於ては現在開市に供用せらるゝ城内客舍内及び其の附近一帶にて其の客舍に餘るものは何れも臨時其の附近の商店を借入れて此れに開店したるものにして開市中當地に集中せる商民の數は實に萬餘に達し路上人を以て塡充せらるゝ盛況なりき（未完）



（廿九）　川合柳葉

侯爵御室篤雅は、昨夜山川宗匠の宅にて酒宴に夜を深されたのと、來京以來少し運動の激しかつた疲が出たのであらう、今朝は例より起床を遲れた三時間、大抵五時に起床するのが、九時少し前に起きられた。そして僅かに一椀の珈琲と、少量の牛乳を飲むだまゝ、何となく氣分が勝れぬとて朝飯は食べなかつた。

次の室まで行つて容態を伺へば、かゝる事とは露知らぬ侯爵は、「奈何したもんだらう、若も這麼事言ひ出したら必然嚴しく留立てするに相違ない、しかしそれは病氣保養のためだと云へば、承かない事もあるまいが、先方には識を願る。いで遣れば宜いか知らん、雅敎から云はせると誠に好都合だが、豊夫現在の弟に云ふも異なものだし、實に困つたなア…………エヽまゝよ豁且、弟から云はして見る事にやう、どうもそれが一番事が成功るやうに思はれる、然うだ然うだ。」と何事かは知らねど、獨語ちつゝ決心した樣子である。

次の室に呼吸を殺して聞いた居た大山は、昨夜の酒が病氣に障つた事と、一方ならず氣を揉めたけれで、今の遊燈の樣子では酒したのではあるまいかと、大變心配致し居りまするが、如何に居らせられます、別に御氣分に障はござ いませんでせうか。」

「イヤ病氣には別に障つたやうにも思はんが、どうやら些と疲れが出たやうに思はれる。」

「しかし、恐れながら餘程顏色が沈むで秘在るやうに見受け申しますが、君やれ体に御異狀などあつてはなりませんゆゑ、醫士を召びまして診察を命じましては如何でございます。」

すると侯爵は沈み勝ちの顏に微笑を泛べ、

「イヤ、いくら名醫を招んだ所が、此病ばかりは到底治癒は出來ないから、まあ〳〵此ましに仕て置くが可い。」

そして例は起きがけに、必ず庭園に出て園内に運動を試むるを、何よりの樂みに爲て居るのが、今日は然る樣子もなく、新聞すらも目だに觸れず、十疊の一室に孑然と脇息に凭りかゝつたまゝ、何を見るともなくジツと空を瞻めて、時々吐息を洩し何か思案に余る事でもあるかのやう、打つて變つた不機嫌である、例なれば、大山、大山と徒然の相手に召寄せられて、ヤ俳句、ヤレ圍碁、ヤレ運動と、何がな對手欲しき侯爵の、今日に限つて大山居るかとも、大山の大の字も云はぬに、從者として附添ふ家扶の大山は、大方ならぬ心配して、若や昨夜の酒が病氣に障つたのではあるまいか、かゝる事より病の重る如き事でもあらば、附添ふ自分の役目が濟まぬなど〻、種々に氣を揉だ揚句、左も右御機嫌を伺はやと

の病氣を募らせたにはあらで、何か他に打明け難き思事あつての故と覺つたから、重荷一つ下した如く、ヤレ〳〵と胸を撫で下した、扨も主に仕ふる身も辛きものかな。

かくて大山は何知らぬ樣子にて、恐る〳〵間の襖を推排き、次の室に兩手を揃へて恭しく、

「何か御用は御座いませんか。」

侯爵は脇息に凭れたまゝ此方に向いて、

「イヤ、何も別に用事はないが、近ふ進むで寸時話さんか。」

「はい難有ふ存じます。」

と、云はるまゝに室に入つて、余程隔つて坐を構へ、

「今朝は御目覺が例より餘程遲くて被仰いましたのに、御體もお召しになりませず庭内の御運動も遊ばさないやうに御見受け申しましたゆゑ、若や昨夜の御酒が御体に害

京城閒聞

副觀察使配置の說

邦人觀察使を任命せよ

韓國積年の弊政を革新するには素より中央政府の改善は無論なりと雖も、人民に直接する地方行政の刷新改善こそ急務なれ、然り如何にして之が改善の實を擧ぐべきか、弁は地方行政の首腦たる地方長官に適材を拔擢して之が改善を計るの外なし、余輩は之に就て屢々當路者に警告したりき、地方行政の首腦たる觀察使に韓人を以てするも決して刷新改善の實は擧らざるべし、部下に幾多の日本人小官吏を配置するも、其權を握れる長官にして韓人たるに於ては何等の効力なく、却て之が爲に衝突を起して衝撞の事を增し、從て事務に冷淡となり唯其役目として眼前に起り來る事件を漸くにして處理するに止り、刷新改善の如きは到底思も寄らず、故に日本人を以て觀察使となし大に弊政打破に當らしむべしと論じたりき、然るに當路者は遂に余輩の言說に聽かず、依然として韓人觀察使を以て甘じて改めず、之れ伊藤公の捨名取實なる奇怪なる方針に基くものにて、其間或は之を斷行するに困難なる事情もあらんかと察し、余輩は更に警告して曰く、全觀察使を悉く日本人とする能はざれば、せめて二三の觀察使を日本人となし之を模範として漸次他に及ぼすべしと、然るに晩近地方行政の弊害續出し、郡守任用に就て志願者は觀察使と結托し、或は暴徒の首領と意を通ずるものさへありとの風說あり、其他爲す所を見るに根本的刷新に着目せず技葉の問題に齷齪し、斷髮勸誘の如きを以て能事とするの觀あり、斯る狀態なれば余輩の警告は將さに適中せんとす、當路者も今や漸く覺醒したるが如く之が矯正の策として日本人の副觀察使を配置するの案を提出し略ぼ定れりと聞く、果して之が事實ならば更に一步を進めて觀察使を日本人となさゞるや、如何に捨名取實の方針に基くとは云へ、斯く迂復緩なる制度を採るの要なかるべし、既に書記官なるものあり、更に副觀察使を置くも五十步百步なり、其權を握る觀察使にして韓人たる以上は到底刷新改善をなす能はざるべし、緩慢なる手段を以て地方の弊政を打破せんとする當路者の苦衷は之を察れざるを得ず、中央政府に於ける次官制度に見るも歐然たるに非ずや、大臣は虛位を擁し、何事も次官の云ふが如く樣に默從せ居り、其議を拒絶するに非ずや、既に決裁權を掌握しむるに於ては非結果を見るは寧ろ當然なりとす、觀察使が此決裁權を振翳して應ぜざるも亦止むを得ざるなり、捨名取實の如きは全く空想に非ず、當路者に於ては決して日本人副觀察使を置かんと迄に覺醒せしならば、百尺竿頭更に一步を進めて思ひ切て觀察使を日本人となすべし、然らざれば地方弊政の刷新改善は期すべからず、當路者は宜しく虛心平氣に余輩の警告に傾聽して二三の觀察使なりとも日本人となすことを斷行せらるべし、必ずや良好の結果を見るに至るべし、茲に於て始て中央政府の大臣にも日本人を以てすることの優れるに首肯せらるゝに至らん乎、

●漢城便り

▲民團議員選擧の期日も段々切迫致候聞くところによれば今回の議員候補者は京城移住民中の錚々たる人々にして同盟會の推選に係るものなれば何れも大多數を以て當選致候事と存候

▲由來狹隘なるが邦人の欠點に有之候特に在留邦人の欠點の如くに有之候而れども今日の京城は昔日の京城に非ず五百や千の居留民時代とは大に趣を異に致居候故民團議員の選出に就ても餘りに交遊や情實に拘泥せず勉めて局量を大にし眞に民團政治に忠實なるべき人物の撰出こそ肝要と被存候

▲選擧の本場は何と云ふても米國に御座候其米國に於ける大統領の選擧は中々盛んなるものに有之候共和、合衆の兩黨が本年の選擧に運動費各一千萬圓を費消すると云ふを聞きし丈にて其如何に盛なるかを推測せられ候

▲南大門附近の道路工事に蒸瀛ローラアーを使用するを見受け候が其狀恰も統監政治の韓人に對するが如く丸石の上を如何に押付けたればとて根が丸石なれば決して良くは落付不申候茲に到て蒸瀛ローラアーを有効ならしむ爲には丸石をわりくりとするの必要有之候

▲村田少將近々中將に昇任し同時に統監府より他に轉補せらるべしとの事に有之候曾て在露我公使館附武官としてペトルスブルクに盛名を博したりし當年の村田將軍を統監の陪乘者若しくは韓大臣等の機嫌取として朽ちしめんとするは遺憾千万の次第に御座候正に來らんとする昇任轉補は我一武人否全武人の体面を保つに適當なる措置と被存候

東京電報

▲拓殖總裁の任命

宇佐川軍務局長は十月中旬東洋拓殖株式會社總裁に任せられ發表の筈

▲拓殖韓人副總裁

東洋拓殖株式會社韓國側の副總裁は金允植に決定したる旨報あり

▲拓殖委員會再開

東洋拓殖株式會社設立委員會は十二月廿五六日頃に韓國委員も再び上京し委員總會を開かる筈

▲拓殖會社定款

東洋拓殖株式會社の定款は十月六日の官報にて發表さる

▲三將軍の敘位

大島久直、井上光、大久保春野正三位に敘せらる

▲公使の新任

獨乙駐劄大使館參事官日置益全權公使に任せられ智利駐劄仰せ付けらる

▲米作第二回豫想

は前回後氣候順を得ざりしため如何に樂觀に見積るも前回の五千三百五十万餘石に對し約五千百萬石の見込なり

▲日韓瓦斯總會

日韓瓦斯會社創立總會は本日役員を指命し定款を可決す設立豫算七十五萬圓にて第一期計畫によれば配當見積一割五步なり(以上三十日發)

▲日韓瓦斯の重役

日韓瓦斯會社は取締役會長に澁澤男專務取締役に岡崎、取締役に高松、久米、大橋、山口太兵衞、白寅基監査役にハンチゲン平深、伊東の諸氏當選決定せり因に市原盛宏氏は同社の相談役となるべしとの事なり

▲米作豫想發表

(東京特電)

米作第二回豫想發表せらる前回の豫想後秋分の現況に徵すれば五千五百三十一萬五千六百三十六石にして前回より三分厘の減收なり(一日發)

雜報

●水原行幸次第

本日の水原行幸次第は左の如く御決定相成りたり

一、午前六時五十分御出門

一、同七時二十分南大門驛御着

此時奏樂

暫時御休憩後直に御乘車先づ列車に御乘車先着の文武高等官はプラットホームに整列奉送し供奉官同時に陪乘し會禰副統監以下統監府高等官同乘

一、同七時三十分南大門驛御發車

一、同八時四十五分大皇橋臨時停車場に御着後直に御轎にて御陵地に臨御

此時行列の順序は左の如し

鹵簿　供奉　統監府文武高等官

但曾禰副統監は列外の事

一、同九時三十五分御休憩所(健陵齋室)に入御水剌の後翼善冠、烏犀帶、白皮靴に改め

此時陪從官は紅門內階上位に先就次で皇帝陛下隆陵丁字閣に入詣し展謁の禮あり畢つて陵上奉審後御次に御親祭官亦小憩

右終りて御展謁禮は展謁禮に同じ後健陵に入詣御辭陵禮は隆陵の時に同じ

一、同十時三十分御休憩所(健陵齋室)に再び入御水剌の後還あらせられ午後一時御發

一、午後二時三十分大皇橋臨時停車場御着

此時陪從の文武高等官は停車場の內

一、午後二時四十八分西湖臨時停車場に御着同所停車場より萬年堤を經放水路を御徒步にて勸業模範場御少憩勸業模範場御暫時御休憩(此時御觀察使以下在水原地方高等官勸業模範場及農林學校高等官父老會及日本居留民總代等に謁見

場內御巡覽

同場玄關より養蠶室西湖架橋稻田を經て西湖臨時停車場へ御徒步

一、四時四十五分西湖臨時停車場御發車

一、同五時五十分南大門驛御着

此時奏樂

一、六時二十分還御

●行幸出門時間の變更

本日水原行幸の昌德宮出門時刻は午前六時五十分に御治定相成りしも都合により六時四十分に御變更相成りたり但し御乘車時刻は變更せず

●民團議員の選擧

官撰令撤廢期成同盟會は其目的を遂行するの便宜上來らんとする民團議員の總選擧に於ては二十名の議員候補者を立てゝソレが當選に盡力せんと決定したる事は已に報導したる通りなり右に付各有權者及有志諸氏の意向を聞くに何れも同盟會の措置を適當と認め進んで同盟會と一致の行動をとり同會が豫選せし候補者を當選せしめんと盡力することに決心し居る有樣なれば此際如何なる人が豫選候補者以外に候補者として現はるゝとも大勢は動かすべからず而して其人の舉動にして若しも同盟會の趣旨に反し或は延て撰擧界を攪亂せんとするの運動方法を採ることもあらば其理由は兎も角結果に於ては多少の紛擾を起し理事官警察官等に煩を及ぼす等の事無きにしもあらざるべきに付既に大勢の定まりたる今日に於ては小野心に驅られて自ら失敗に歸するの運動を試み又は小策を試みて選擧者を惑はして選擧界の平和を攪亂する等の心得違なき樣注意する事肝要なり

●事務監査會開設

統監府に於ては本月下旬理事廳事務監査會を催し民長問題に關する善後策につき討議する由なるが本會議の參考上各民團事務に對し監督及注意を要すべき事項に關し理事廳の意見を徵する筈にて石塚參與官より十五日迄回答すべしと各理事廳に通牒を發す

●拓殖會社定款の發表

昨日の東京電報に見ゆる如く日本に於ては東洋拓殖株式會社定款は十月六日に發表する模樣なるが韓國に於ても此れと同時に定款を發表し尙農商工部大臣より同會社設立に關する諭告及び土地出資に關する告示を發する筈にて此等は目下上京中なる木內次官日本側に打合を遂け歸任するなるべしと

●金允植副總裁說無根

昨日の東京電報には東洋拓殖株式會社韓國側の副總裁は金允植に決定したる旨報ありとあるも今確かなる筋にて聞く處によれば同副總裁は數人の候補者あり目下夫れ〳〵運動をなしつゝある模樣にて未だ何人が其の任に當るや未定にして東京電報は何かの間違ならんと云ふ

民團議員新候補者

菊池謙讓君

漢城政界の活歷史として果た正論讜議の操觚者として世人氏の名を知らざるはなし氏は早稻田專門學校初期の出身にして夙に健筆の譽高く爾來鉛槧の業に從ひ國民新聞の通信員として韓國に來りしが觀察文章共に同輩を拔き爲めに同紙上一種の異彩を放ちたり其の後明治三十三年漢城新報の社長兼主筆として聲名一時に高く侃々諤々の議論以て一世を警醒せり次で三十六年に至り同新報社々長を辭せしが翌年大東新報社を創設し爰に又堂々の論陣を張り極力民論を代表して正論讜議を恣にしたり而して氏今や雄大の英志を收め虎視眈々風雲の成行を觀望せるものゝ如くなるも唯氏が今回の官撰令撤廢期成同盟會員の勸告を容れ選擧場裡に立たんと決心するに至りしは吾人共に多とする所なり

民團議員新候補者

城六太君

氏は熊本縣菊池郡の人なり明治十八年十一月渡韓し陸軍々醫部の書記を拜命せしが當時東學黨の騷擾なりし爲め專ら地方に出張し幾多の苦心と艱難とに遭遇したり勤むること滿二年にして職を辭し次で京城に居を構へて質業を營みしが幾干もなくして同業者より推されて之が取締の重任を帶ぶるに至れり三十六年居留民の信望を負ひ選ばれて民會議員の職に就き更に又三十七年七月日本人商業會議所の議員に推されしが其の後感ずる所ありて兩議員の職を辭し爾來專心自己の營業に餘念なく孜々汲々以て今日の資產を作るにいたれり氏今や聲望漸く高く居留民の代議者たるに愧ぢずといふべし

民團議員新候補者

石井新君

氏は明治十八年大坂府立大阪醫學校を卒業し翌十九年大坂府飲料水試驗所技手に任せられ夙に敏腕の令名高かりき次で三十三年大坂府醫學校書記長を拜命し更に轉じて同府立病院庶務課長となり大に病院の爲め盡力する所ありたり而して氏が韓國に渡航せしは明治三十五年にして當時の中村民長時代居留地の衞生掛を務め鋭意居留地の衞生事務につき一方ならざる苦心と劃策とを重ねたり三十八年本町七、八、九丁目の衞生組長となるや更らに同年漢城衞生社を創立し自ら之が社長として專ら局に當り爾來精勵格勤以て今日に至れり思ふに氏や元刀圭界の出身其衞生事務に關して精通せるは敢て言ふ迄もなく從つて其の居留地の衞生事務につき多大の貢獻を與へたるは居留民の一般に認識する所なり尙其の他氏は京城居留地繁榮期成同盟會の幹事及び大阪人會の幹事を兼ね一意公私の事業に從事し居れり

●繁榮會總會

中村再造氏外四名の有志家を幹事とする同會は來る三日櫻の家に於て同會の總會を開催するとの事なり

●農商工部の明年度豫算

農商工部明年度豫算は目下各局課に於て調査中にして愈終了したるを以て本月早々木內次官の歸任と共に決定し度支部に要求する筈にして一般に昨年度より增加するも就中山林局主管に於ける山林調查及び造林に要する新要求農務局主管に於ける擴張費商工局に於ける博覽會費等は其の主なるものにして尙商品陳列館新設の議あるも此は多額の經費を要するを以て明年度より直ちに着手するを得るや否や明かならずと云ふ

●仁川會議所豫算

仁川商業會議所四十二年度豫算會は一昨日午後一時より開會し歲出豫算の審議訂正の上可決し歲入は田中佐七郎、市川武吉、太田三郎、兵須又、野田文四郎、美濃谷榮次郎、濟木一菜の七氏を課金査定委員に擧げ再調査の上再び總會を開き審議することに決したり尙歲出豫算は七千百〇五圓にして前年に比し六百八十一圓五十錢を減額せり

●郵船の韓航路船

仁川及當地大連向の歐米雜貨品が目下神戶に停滯し居るを以て日本郵船會社にては新潟丸を臨時船として韓國航路を補助せしむる筈なりと

●仁川通關業者組織

久しく行惱みの姿なりし仁川通關業者組合は愈々近々中に組織することに決し發起人側に於ては二三の反對者は斷然除名することにして一日も早く組織せんとて兩三日中に總會を開き規約等を決定する筈なりと

●仁川同志會と淸商

仁川實業同志會は創立以來日々會員を增加しつゝあるが昨今に至り支那商人が日本人に對する貸金取立の必要より加入を申込むもの數名ありたりといふ

●大豆相場の上向

一時一圓以上の暴落を現して仁川穀物商の心膽を寒からしめ之れが爲め破產同樣の悲運に立至れるものさへありし大豆相場は其後入荷の少なき爲め相場稍々恢復し目下の所約十錢方の騰貴を示せり即ち昨日の相場は龍山物六圓十錢長湍もの五圓六十錢並五圓二十錢方なりき

●韓語講習會卒業式

荻田悦藏氏を會長とせる東洋協會專門學校京城分校內なる韓語講習會は來る三日午後三時第一回講習生卒業式を擧行する由

●仁川小學校運動會

仁川小學校に於ては來る十一日午前九時より觀測下廣場に於て秋季大運動會を開催すべし

●釜山理事官歸任

兼ねて上京中なりし釜山龜山理事官は昨日歸任せり

●仁川署長水原行

仁川警察署長以下十數名は韓皇水原行幸警衞の爲め昨日午前十時仁川を出發したり

●仁川海岸の電燈點火

仁川民團は電燈會社と交涉の上稅關埠頭より水產會社に至る海岸一帶に十數個の大アーク燈を建設し出入の船舶に便する計畫ありとなり

公人私人

▲高杜吉(八幡製鐵所技師) 入京中なりしが一昨日開城へ向け出發

▲今城壽助(東京被服廠一等主計) は一昨日入京浦尾旅館投宿

▲江口又男(步兵第十三聯隊附中尉) 一昨日金化より入京浦尾旅館投宿

●近事片々

▲驚異 水原に向ふ爲め宮內官吏オモチャ箱引繰返した騷ぎをやらかす依例如例と嘆

▲御祭 御新嬪は宮中の內職內官女官の金儲位に任り近頃頓と妙ならずと恩內嬪泣く

▲巾着 錢が無いので軍士使令に小遣がやれぬと陛下內々こぼし給ふと承はるは眞乎

▲同胞 同族又同文宮士金剛世界聞と宋秉畯七絕をぬたくる流石は新協約の旗頭の作

▲韓南 に於ける葉錢問題は世の注意を惹くに至る現今の如き手緩るき整理ではだめ

▲葉錢 引上げ開始後回收したるもの漸く十八萬九千九百餘貫に過ぎずとは埒明かぬ

▲尙ほ 現流通高は百五十萬圓を下らざるべしと云ふが中々百五十萬圓位の者でない

▲市場 の光景に依て概察するに尙ほ三百萬圓位は大丈夫あるべしとは支人筋の物語

▲土地 丈量の遂行は目下の急務來年は京畿道を試驗的に丈量をなすべしとは結構也

▲仁川 平壤鎭南浦間の長距里電話開通せられたり商業上の關係甚だ喜ぶ可き事なり

▲大韓 協會は愈々現內閣に向て問責の一矢を放射したり果して應驗の徵なりや否や

▲其言 說公平凱切完用內閣の批政を擧げて餘蘊なしされど政權接近の策あらば非也

▲已に 政權を得んとして燒點的の攻擊は陋也全く虛心平氣の問責ならば大に好し

▲東拓 會社の副總裁容易に極らず鉢は廻り廻て美濃部俊吉氏に及ぶ果して適任乎

▲美濃 部氏曾祖子のチングなるは事實されど其手腕に至りては其適任なるやを疑ふ

▲官吏 より北海拓殖銀行頭取となれる人如才はなからんが大陸經營の大任如何にや

▲氣宇 手腕共に酒勾常明氏ならば眞に適任ならん乎殊に農事上の智識の豊富に於て

▲韓人 側の副總裁も不相變競爭最中のよし併し閔泳綺が一番適任と見られ居る樣也

▲李允用 李夏榮趙羲洞李根培等娘一人に婿八人の觀中原の鹿何人の手に落つべき乎

▲國民 議會の準備會開かる大井馬城決議文を提出し異議なく喝采叢裡に之を可決す

▲河野 盤州を委員長に委員は鈴木充美柴貞吉山路愛山奧宮健之大井馬城等なりと

▲近日 來朝せらるゝ淸國大官唐紹儀はエール大學の卒業にて其人物も中々偉なりと

▲淸國 政治家中にては最も大勢に通じて頭腦の明晰なる事[illegible]の器なりさ

短篇小說

舊友（六）

晉楓作

「春子さん、貴女細田樣を御存知なの。」
「妾能くは知らないけども、細田樣は私村田の舊い友達なんだそうですよ。」
「あの細田樣が、まア……。」
「だが、本統に不思議ですわね、細田樣が村田の舊い友達で、藤枝さんか妾の閨密の友でせう、その方が互にラブして居つたなんて……緣と云ふものは、解らないものね。」
「本統ですわ。」
藤枝は、俯いて思ひに沈む。
「妾そうと知つたら、貴女に細田樣との結婚を無理にも迫るのよ。」
二人は、ハタと顏見合はして、默然する。
「細田樣は、矢張內地に被居るの。」
「否、妾の家に居られてよ、それに就てねお話があつてよ。」
「左樣なの。」
細田正と藤枝との二人の戀は、藤枝の父に拒絕れ、細田は恨を呑んで藤枝と別れた。別れてあくる日、飄然京地を立つた細田が七年目の今、韓國に來るとは、神ならぬ身の藤枝は知るよしもない。
細田樣は、其の後如何にせしや、如何にして渡韓せられしか、藤枝は一刻も早く聞き度いのである、その打騷ぐ胸中の鼓動を押へて、
「それ話つて何んなこと。」
「それは斯ふなんですよ。」
と、冒頭して、春子は語るのである。
「恰度前週の日曜日の晩よ、村田が笛を吹き乍ら、漢江の草堤の中を漫步いて居ますとね、向ふの涯の上に、何んだか黑いものが見へるので、月光に透してよく見ると、何うも人間らしいのですつて、訝しいぞ今時分彼樣な處に上つて、河面を眺めて居るなんて、コリャ若しや身でも投げるのではあるまいかとソッとその涯の後方に忍んで動作を見て居りますと、驚て身を投げやうとしたから、村田が後方から抑へて能々見ると、それが貴女細田樣なのですつて、本當に奇緣ではありませんか。」
「まア、細田樣が。」
藤枝は、思はず膝を進めるのである。
「それから家へ伴れ申してね、段々と御樣子を伺つて見たのですよ。」
お吉は、再び茶を入れ換へて、二人の前に在くのであつた。
「何でも貴女と別れてから、一旦は故鄉は出て見たものゝ、猶且東京が戀しいので、再び上京されてね、社會黨に加盟なされたのだろうですよ、幷して隨分と社會を呪ひなすつたそうですけれども、遂々成功せなかつたのでね、二月程以前に韓國に往出でになつたのだろうです、もう世の中が無情で厭で／＼堪らなくなつたので……それで貴女ね……。」
「本統に細田樣には、濟まないのね、妾如何しませう。」
藤枝の涙しき睫元には、たゞならぬ闇雲が掩ふのである。
「藤枝さんは、妾のれ友達よと言ひますと、細田樣は、大變驚きなされて、種々と貴女のことを尋問なさるんですよ、それから妾詳しく申しましたの。」
「叔母さん、今朝は有がたうよ、た父さんね大變喜んでよ。」
突然に緣外から、聲をかけるのは春子である。
「春ちやん、被入いよ。」
「アラ、村田の小母さん今日は……。」
「本統に春ちやんは、可愛いのね。」
「小母さん、また來るわ。」
春子は、ポン／＼踊つて往却ふのである。

●朴泳孝の近狀

住居制限滿期に達したる朴泳孝は暫く歸京せざるべしとの事は曩に報道したる處なるが最近に濟州島に旅行して彼と面會したる某日本人の談を聞くに彼は家族と共に配所にて二棟の瓦葺家屋に借居しあり專心果樹園の經營を試みつゝ政治問題を語るを好まず「濟州島は火山岩を以て成り土地磽确にして耕作に適せざるも古來柑橘の類を產し果樹の殖栽には適當なるべきを思ひ五六町歩の地を墾いて林檎桃梨其の他の果樹を試植し島民を勸誘して島の產物たらしめんと努めつゝあるも島民が未だ果樹の培養に熟練せざると地北に面して颶烈しく冬季の如き寒風に吹き晒されて樹枝を害する事ありて充分に目的を達する事を得ざる有樣なるが本年は防風林を設けつゝあれば漸次に好結果を得べし」と樂み居れり今暫くは歸京せず餘生を此の地に送る考へなり云々と語り居たりと云ふ

●憲兵護衛に就て

地方旅行に付憲兵本部に護衛を願出る者あるより其方法を當局者に聞く處に依るに目下憲兵の勤務も非常に繁忙を極め一々護衛の請求に應じて滿足を與ふること能はざるも駐韓憲兵は今年に入り增派され且つ各地の分遣所も殆んど行く處として駐在なき迄に增設せられ其間勤務連絡も備り往復又少からざる狀態にありて旅行上毫も不便なきに付旅行者は直接最寄の憲兵分遣所に何日は交通連絡ありや何日は郵便護衛ありや否やを問合せ憲兵出張の有無を撰び同行を受くるは双方互の便利にして且つ安全なりと

●五高同窓會

熊本第五高等學校に緣故ある人によりて組織せられたる五高同窓會は來る四日仁川欒角洞新原農園にて秋季例會を開く筈在京會員は同日午前九時五分南大門發急行列車にて下仁し仁川の會員は之を杻峴停車場に迎へ一同會場に至り一日の清歡を盡くす筈例に依りて會費は金二圓往復の汽車賃は自辯仁川登臺局の島重治氏又は統監府秘書課服部囑氏等にて出席の御一報を得たしとなり

●統監府員の娛樂會

統監府員及家族の娛樂の目的を以て七日午前九時より和將臺俱樂部に娛樂會を催す由

午前の部
碁、將棋、玉突、羽根、ピンポン

午後の部
各模擬店開始、大弓、擊劍、テニス、角力、講談、落話、寶探

午前午後の部
盆栽、書畫、骨董、寫眞、造花、繪葉書等陳列

●流刑囚の生活

今回大邱、東萊、濟州島、智島、莞島、羅州、光州、馬山の各地方の監獄並に流刑囚の生活狀態を視察して歸京したる臼井法部書記官の談を聞くに目下流刑囚の在るは珍島、智島、莞島にして囚人は約五十餘名なり珍島に於ては酒幕が交代にて囚人を養ふ事となり居り他の島にては島民申合せの上或は一戶を借り與へて金錢又は物品を醵出して生活せしめ又は毎日各戶交番にて食物を給與しつゝあり此等の囚人は裁判所より郡守に引渡し郡守は更に此れを面長に引渡し保證人を立てしめ預からしむるものにして其の教育あるものは或は讀書し又は島民を集めて談話等をなすものもあれども多數は爲す事も無く遊食せるのみなりと云ふ

●病牛肉の害毒

黃海道長淵郡昔灘に於ては炭疽病牛の肉を食して十二名同病に感染し內六名死亡し尙罹病中の者三名全治したる者三名ありし旨其筋に報告ありしと云ふ韓國の牛畜には炭疽類々發生するを以て牛肉需用者は特に注意すべしとなり

●カバンは如何なつた

一昨日午後七時京仁線仁川行列車が梧柳洞驛に停車中一人の擔軍が赤色の鞄を携へ來り三等室に乘り居れる高橋平藏なるものに向ひ此汽車は何方行きかと尋ねるに平藏は仁川行と答へたるチゲは其儘カバンを持ちて立去りたる跡にて一人の西洋人が周章しくカバン／＼と云ひつゝ三等室に來り探す中汽車は一聲の笛と共に運轉し出したれどカバンを託せしチゲは遂に見出すを得ざりしと若し紛失したりとすれば氣の毒のことなり

●敵は西小門外

旭町二丁目材木商森清は去月井上勝輝なるものより材木賣買に就て詐欺せられたることありしが井上は其後姿を隱したるより森は之を口惜がり何日か仇を復せんと注意し居りしが井上が西小門外李夏榮宅附近なる日本人の家に潛伏し居れるを探知し一昨日西部警察署へ此旨訴へ出たれば早速同署に拘引されたり

●分らず屋には困る

西小門外五十一統十戶金永鎭（五十）といふは一昨日午後三時自宅前に於て子供に放尿させ居れるを巡査が認め說諭せしに却て暴言を吐きて止ざるを以て己を得ず西部署に引致したりと云ふ

●ロハ飲訴へらる

明治町二丁目二十七番戶加納サイ方に同居せる驅久利七（三十）と云ふ金のありさうな名ばかりの男は一昨日午後八時竹園町一丁目飲食店三近樓へ登り大盡風を吹せて翌日の午前一時頃までブッ通しに飲み續けた代金が三圓八十錢餘に及び勘定をと催促され懷ろを探りて見たれど金とては銅錢一文もなければ此樣な筈ではなかつたがと勘定書を見詰めた儘手を懷中より出したり入れたりするのみにてない金の出ろう道理もなければ亭主は業を煮やし銅峴分署へ訴へ出でれ手數を煩はしたりど は意氣地のない男ではある

●客の品を預て罰あり

太平町一丁目五十四番戶九州樓事渡邊ミチ（三十）は去る二十六日夜大分縣平民廣津梅次郎外四名が登樓し飲食したる勘定に差支へたるを以て其筋の許可をも得ず勝手に其所持品を抵當として預置したるを以て料理店取締規則に依り科料五十錢に處せらる

●多い少いからの叩合

南部屯芝尾住金春根（五十）西部倉洞內金平學（五三）の兩名は胡椒商にて毎日南大門通りに露店を出し居れるが昨朝八時頃兩名は俺れの胡椒が多いイヤ俺れのが多いと爭ひの末が例の長煙管を振廻はして叩き合ひ兩名とも負傷するに至りたるも兩名は兼てより親しき仲とて巡査の目玉で事濟みたりと

●醉ドレヨボの打ち合ひ

南部後洞李德順（三十）及び同茶洞川邊八統三十九戶孟德隣（二十七）の兩人は一昨日何處かで飲んだと見え酒に醉つ拂ひ德隣宅の前にて何事よりか衝突し打ち合ひを初め大立廻りを演じ居るを巡査が通り掛りクヤ／＼貴樣等は往來で喧嘩とは何事だと大目玉をひき出して叱り付けたれば兩人はアイゴといつて跡はアラヲ／＼

●醉ドレヨボ

西部典特司前十一統四戶宋與俊（四十）といふ男は一昨日午後三時何處で飲むだ酒の廻はりし足もシドロにアラランを歌ひながら里門洞まで來りしが丁度其處に餅を出し居たる金召史といふ婆さんの店に至り亂暴を働きたれば法の如く西部署へ引渡されたり

●●●●●審座の値下げ

審座に於ける木村一座の演劇は開場以來非常の人氣なりしも跡三日にて愈よ千秋樂とすることとなりたれば其れ禮として特等棧敷一人前五十錢、一等平場同三十錢、二等割場同二十五錢に値下げし何れも木戸錢入らずとしたり又本日の藝題は「又者緣」にして場割左の如し
伊達郡上住村端、同中住村茶店、街道三本松、元大坂町床辰、芦町高の家小花內、鐘橋秋侍廳、百尺樓上
又た重なる役割は左の如し
車夫房太郎（內藤）惡車夫鼠寅（寺田）尾形安武（松村）信濃屋米造（富士井）村長瀨上文造、雁婆れりき（石井）茶亭婆れ留（高尾）藝妓小花（野村）若旦那米二郎（矢野）醫學生藤井寬（榎本）仲居れよし（花井）銀行員田毎新（佐海）惡車夫鐵治、町小使尾形保夫（木村）

●京城座の替り狂言

同座本日の替狂言は「恩讐の鐵砲」にして重なる配役左の如し
樺島大佐（石見）荒川大尉、人夫頭新五郎（稻葉）銀行頭取中川、島田中尉、遊人權七（尾崎）女中たま市（桂木）手代野田與市（吉井）ハイカラ令孃金田初子（橫山）大田原少尉（山岡）外人グランド、兵卒田中松吹（八百屋芳、一等卒山田（松村）令孃たき子（松岡）櫻田雄吉（青山）夫人道子（阪本）金田久平（瀨川）

●天氣豫報（自一日午後六時至二日午後六時）

北又は西の風晴
一日午前六時各地氣象概況
高氣壓は尙滿州附近にありて北又は南風吹き一般に晴天なり

廣告

第十三師團歸還ニ付送別並ニ紀念品贈呈中ニ左ノ通リ寄附セラレタリ
明治四十一年十月一日
京城居留民團民長 熊谷賴太郎

一金壹百圓也 第一銀行京城支店支配人 市原盛宏殿
一金五拾圓也 三井物產會社京城出張所長 淺野長七殿
一金四拾圓也 第五十八銀行京城支店支配人 菅原大太郎殿
一金貳拾圓也 第十八銀行京城支店支配人 清水文之輔殿
一金十五圓也 土佐紙合資會社支配人 白石巖雄殿

來ル十月十日第十三師團並第十三師團長ノ指揮ニ在リテ韓國守備勤務中戰病死シタル軍人ノ爲メ鎭魂祭ヲ西大門內慶熙宮庭苑ニ於テ擧行相成候ニ付キ有志諸君ハ當日午後二時參拜アリタシ
遺族ニシテ參拜セラルヽ向ハ十月八日迄ニ本委員ニ申込マレタシ
有志參拜諸君ハ南側入口ヨリ入場セラレタシ
當日晴雨ニ拘ラズ擧行シ午後二時ヨリ劍術、馬術其他餘興アリ
明治四十一年十月
第十三師團司令部內
祭典委員

新講談 女俠秋瑾の傳（三）

中にも巡撫を擁蔽せんとて矢表に立つたる二人は、先づ一人重傷を負ひ、次ぎに一人は射殺され、巡撫も身に數彈を受けて地上に斃れる。逃げ後れたる巡撫の下僕數名は、此の體を見るより急ぎ主人を肩に掛け、辛くも轎の中に擔ぎ入れ、一目散に衙門を指して逃げ歸る。

衙で巡撫は散々打たれて衙門に逃げて來たので一同は驚いて巡撫の傷所をしらべると肩に一個の貫通銃創、腰と腹部とに各一箇の盲貫銃創を負ひ、都合三箇所の痛手である。醫師は一診の後腹部の盲貫銃創こそ致命傷なりと斷じ、直ちに解剖に着手して、腹中の彈丸を拔き取らんとて、將に手術に掛らうとする時、時計は午後の二時を報じて、巡撫は息を引取つた。

各司道は茲に會議を開いて、取敢へず巡撫の死を秘密にし、容易に喪を發することなく、一面城の四門を固く鎖し、常備標營の兵に命じて、直ちに徐錫麟の事に從はしめ、誰れでも徐錫麟を捕へた者には、賞銀三千兩を與へるぞと云ふ騒ぎ。仕損じたりと徐錫麟、大刀拔き持ち教室より飛び出して見れば、此騒動に驚きてや、巡警學堂の教員學生等は早や四散して、其所に殘つて居るのは僅かに學生二十餘人に過ぎぬ。徐錫麟は聲を勵まして。

「一恩巡撫は既に誅したぞ。我等は正に進んで某衙署、同衙署の腹心某、及び某督の三人を捉へ、奴を斬らんとす。諸君は速かに、我が革命の軍に服すべし。」

學生等は驚愕の餘り爲す處を知らず、只だブル／＼と顫へて居るばかり、殆んど手も足も出ない有樣。此の體を見たる陳伯平、馬宗漢の兩人は、左手に利刀を提げ、右手に短銃を握つたまゝ「云ひ甲斐なし。」とばかり學生等を睨め付け。

「氣を着けッ」「左向け左」「驅足…」と突然號令を下した。而かもその内の一學生は斯うなつてもまだ躊躇決することをしなかつた、其所で徐錫麟は憤然色を作してこれを立ろに斬殺した。此の勢に辟易した殘餘の學生は、一齊にその命に服すべきを誓つたので、徐錫麟は急ぎ隊伍を整へ、直ちに軍器庫差して押寄せ、門内に入ると聲しく大聲にて呼はりたるは。

「巡撫既に命を殞す、我等は來つて軍器庫を保護するのである。」

此の勢に怯ち恐れたる軍械所總辦周昆は裏門よりして逃出した、徐錫麟式直ちに闖入して、學生等に命じ新舊式の砲彈を調べさせたが、誰とてこれを知るものもなく、殊に火藥は火藥、爆管は爆管、門管は門管と各々分納してあつた。爲めに、裝配に時處々々しく手間取る。

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金壹圓…
●廣告料 …
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 ●木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門 電話六六